



## 土橋中学校の草創期の歴史 - 「民主」ということ -

校長 井之上 良一

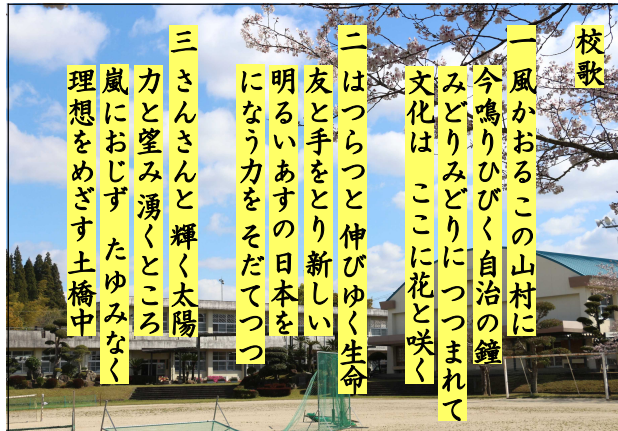
本校の歴史は、今を遡ることおよそ70年前の昭和22年4月に始まりました。御存じの方もいらっしゃると思いますが、当初は伊集院中学校土橋教場としての出発でした。教場というのは分教室という意味であり、『伊集院町誌』によれば、校長は伊集院中学校長である田代誠道先生が兼務されていたとのこと。その後、施設・設備が充実し、昭和24年4月に土橋分校となり、翌年の昭和25年4月に伊集院町立土橋中学校として独立しました。学校沿革史をひもとくと、この頃「一・二・三学年とも二学級になる」という記載が見られることから、当時の全校生徒は300人ぐらいであったと思われる。

伊集院町立土橋中学校として発足した当時、第二代校長として赴任されたのは嶽崎政美先生です。先生は日本史を教えておられたとのことですが、本校校歌の作詞・作曲者であることで知られています。校歌の歌詞を右に掲載してみました。

この校歌は親しみやすいメロディーの中に若々しい希望や理想があふれています。本校の卒業生の皆様方は、折に触れて、歌詞の一節やメロディーを懐かしく思い出されることがあるのではないのでしょうか。

校歌の歌詞に関して、本校の卒業生である比良允幸さん（昭和29年卒）は、『創立50周年記念誌』の中で、「校歌の言葉『自治』『文化』『あすの日本』『力と望み湧く』『嵐におじず』『理想をめざす』等は、当時の世相を反映していると同時に、現在でも通用する。」と、歌詞の持つ普遍的な意味に言及されています。それから時代は進み、令和の世となりました。現在、記念誌発行からすでに20年が経過しています。しかし、校歌の歌詞が意味し、目指すところは、今の時代においても色あせていないように思われます。

「今鳴りひびく自治の鐘」とは、自治的に考え、行動する気風が満ちているという意味と解されます。また、「明るいあすの日本をになう力」とは、社会の中で役割を果たし、共に社会を支えていく力と捉えられます。さらに、「理想をめざす」とは、自由、平等、公正、自治などの諸価値を具現化すること、すなわち、民主的



な社会を創造し、前進させることだと推量されます。

このように捉えることが許されるならば、民主的な社会を創造し、前進させる人づくりこそ、校歌に込められた願いであり、学校創立の基本精神であると考えられるのかもしれませんが。

ところで、この「民主」という言葉の持つ特段の意味については、先の大戦の惨禍のすさまじさに思いを馳せれば、おのずと理解できることですが、ここに一つの話を紹介したいと思います。それは、『氷点』という小説で有名になった作家の三浦綾子さんにまつわる話です。

三浦さんは、昭和14年、17歳の頃、北海道の歌志内市にあった小学校の代用教員となります。ところが、24歳の時に意を決して勤務先の学校を後にすることになります。自伝的小説『道ありき』の中には、次のような箇所が出てきます。

「昭和21年3月、敗戦の翌年、私はついに満7年の教員生活に別れを告げた。自分自身の教えることに確信を持たずに教壇に立つことはできなかったからである。」

また、別の箇所には次のような記述があります。

「あるいはまちがったことを教えたかもしれないという思いは、絶えず私を苦しめたからである。」

三浦さんは、厳しさと優しさを併せ持つ、熱心な教師であったと聞きます。しかし、敗戦後の教育の大転換を受け入れることができず、苦しんだ末に教員を辞めてしまいます。三浦さんにとっては、「人間である前に国民であれ」と教える教育から、墨塗り教科書とともに、天皇陛下は人間であると教える教育が変わったことが痛恨の出来事だったようです。つまり結果として、子どもたちに嘘を教えてしまったとして、自責の念から職を辞してしまったというわけです。この後、彼女は良心の呵責にさいなまれ、心身ともに疲弊し、重大な病気を発症してしまうこととなります。

彼女のような状況に至らずとも政治体制や価値観の大転換に苦しんだ方々は、当時大勢おられたことだろうと想像します。「天皇主権」から「国民主権」への転換、つまり民主的な社会の到来は、多くの人々の犠牲や苦難の果てにもたらされたものであるということを、ここで改めて肝に銘じておきたいと考え、以上引用しました。

国際化が進展する中で、欧州諸国においては外国人の受け入れ増加に伴い、自国第一主義を掲げる政党が躍進し、政権の運営にも影響を与えつつあるという話を耳にするようになりました。国際化の進展は、もちろん歓迎すべきことであり、望ましい方向性です。しかしながら、社会の安定という面では難しい側面もあり、いずれ日本社会も国際化の波にもまれて、動揺をきたすことがないとは言いきれないと思います。こうした時代状況を背景として、「民主」ということの意味を考える時、校歌が指し示している精神は今なお新しいと思わずにはおられません。

さて、本校の歴史に話を戻します。嶽崎校長先生の後任として赴任された第三代内匠屋一二校長先生は、学校の校庭の周りに桜の木を植えることに熱心に取り組み、講話の中で次のような話をされたそうです。

「学校の周囲に桜を植えよう。君たちが大人になったころ、ここは桜の名所になる。後輩は桜吹雪の中を登校するのだ。」（『創立50周年記念誌』東憲治さん〔昭和32年卒〕の寄稿文より引用）

この話を目にする時、思わず胸が熱くなってしまいます。土橋中学校の草創期、それは、学校の土台を築こうと理想に燃えていた時代であったと想像されます。

## SSH連携授業 2/10

池田高等学校から生徒6人、先生2人が来校され、理科の学習を提供していただきました。1・2年生はCDを利用した装置を製作し、さまざまな色を見る実験、3年生は落下するものさしをつかみ、反応速度を調べる実験を行いました。池田高校の生徒さんのサポートのおかげで、科学の楽しさを実感・体感する時間となりました。



## 中学校入学説明会 2/13

土橋小学校の6年生を迎えて、入学説明会を実施しました。本校の1年生が、国語科の授業で作成したガイドブックをもとに、中学校生活と小学校生活との違いを自らの経験と交えながら分かりやすく説明してくれました。小学生からも質問が出されるなど充実した説明会になりました。皆さんの入学を心から楽しみにしています。



## 譲り葉の会（立志式） 2/14

進路選択を1年後に控えた2年生が、これまでの振り返り、今後の生き方を考え、目標葉を発表する譲り葉の会を実施しました。今回は発表の後に、心に残った新聞記事を紹介し、保護者と交えてこれからの生き方について意見交換も行いました。故郷を大切にしたいという気持ちは共通しており、今後も地域のために頑張ってくれると期待しています。



## 学年末PTA 2/14

学年末PTAを開催し、多くの保護者の皆さまに出席をいただきました。御多用の中、本当にありがとうございました。今回は、家庭教育学級閉講式で、日置市役所健康保険課の奥園貴子さんを講師にお招きし、食育の学習を行いました。間食のカロリー摂取量等を中心にお話いただきましたが、子どもたちが大人になったときに頼りになるのが親の作ってくれた食事であるというお話が印象に残りました。子どものために作った食事が、そのときだけではなく、将来にもつながるという「食」の大切さについて認識を新たにしました。



## 第3回学校評議員会 2/14

今年度最後の学校評議員会を開催し、今年度の学校経営や学校運営について評価をしていただいたり、来年度の学校経営方針について意見交換したりしました。

今年度については、学校自己評価の結果や諸調査等の結果、生徒のようすなどから、充実した教育活動が展開されていると評価をいただきました。また、それらの成果を地域内外へ向けてさらに情報発信し、生徒数確保につなげてほしいとの要望をいただきました。

来年度については、これからの時代を生き抜く子どもたちに必要な能力を身に付けさせるためにも、校訓や学校教育目標を変更することに賛同していただきました。今後も、学校教育目標を具現化できるよう一丸となって取り組んでまいります。

日	曜	3月の主な行事予定
2	月	おひさまあいさつの日
5	木	公立高校入試（～6日）
9	月	同窓会入会式
10	火	卒業記念給食会 お別れ球技大会 巡回図書 PTA評議員会
11	水	卒業式予行・準備
12	木	第70回卒業式
13	金	公立高校合格発表
20	金	(祝)春分の日
25	水	修了式
26	木	離任式 PTA校区合同送別会